

ワウラ川(RIO HUAURA)流域遺蹟調査概報

福 原 栄 太 郎

目 次

序

第1章 調 査 の 経 緯

第2章 位 置 と 環 境

第3章 遺 構 と 遺 物

1. 建造物について
2. 土器について
3. 織物, その他について
4. 人骨について

結 語

序

本調査は1983年、関西学院大学がペルー共和国の国立人類学考古学博物館 (MUSEO NACIONAL DE ANTROPOLOGIA Y ARQUEOLOGIA) と提携して組織した「アンデス地域文化の研究」における協同研究の一環として実施されたものである。

ペルー共和国には、プレインカ及びインカ時代の遺跡が数多く存在しており、世界各国の研究者の手によって調査が続けられ、日本からも東京大学や国立民族学博物館等の調査団が多くの成果をあげてきている。

アンデス流域における文明は、特に文字による文化を持たなかったため、その解明にはスペインによる征服以後に記されたクロニカによる研究を始めとして、人類学、考古学等の分野における研究が不可欠とされる。

特に発掘による調査は研究に当って重要な位置を占めるものであるが、ペルーでは未調査のまま放置され、人為的、自然的に破壊されてゆく遺跡が多くある。その理由としてはペルー国内における政治的、経済的な状況に比較して余りにも遺跡の数が多いため、調査が充分に行き届かないことがあげられるが、砂漠や高地における地理的な環境の厳しさも理由の一つにあげ得る。

そこで今回の協同研究においても発掘調査が一つの大きな課題となってきたのであるが、期日の制約もありこの現地調査においては、研究目的に沿った調査候補地を確定することに第1の目標を置いた。

幸いペルー在住のエルネスト山本氏等の協力によって、ワウラ川 (RIO HUAURA) 流域におい

て未調査の大規模な遺跡を発見することができ、当初の目的を達し得たので以下今回の調査の概略を記し、概報とする。

現地調査団組織

団 長 亀田 隆之（関西学院大学）

調査員 畑 道也（関西学院大学）

調査員 福原栄太郎（神戸山手女子短期大学）

調査員 HILDA AUGUSTA VIDAL VIDAL.

(MUSEO NACIONAL DE ANTROPOLOGIA Y ARQUEOLOGIA)

協力者 エルネスト・山本、向井勇

尚、この概報は、「アンデス地域文化の研究」調査団における考古学担当の福原の責任においてまとめたものであることを附記する。

第1章 調査の経緯

1970年より5回にわたってアンデス地域における灌漑用水についての調査に当たってこられた調査団長の亀田隆之氏は、1982年の調査の際にワウラ川の流域を訪れ HUACHO から SAYAN にかけていくつかの未発掘の遺跡が点在していることを確かめられ、その一つに黄色の顔料を塗ったアドベ（日乾煉瓦）の柱を有する遺構があるとの情報を得てこられた。

ペルーの海岸部は沖合を寒流であるペルー海流（フンボルト海流）が流れているため、世界有数の海岸砂漠地帯となっており、人々の生活はアンデス山脈を源として太平洋にそそぐ大小河川によって形成されるオアシス地帯に限定されている。

即ち、代表的な河川をあげるならば、北から南に向って、北部海岸部では、ランバイエケ、サニャ、ヘケテペケ、チカマ、モチェ、ビルー、チャオ、サンタ、ネペニャ、カスマ、クレブラス、ワルメイ、中央海岸部では、フォルタレサ、パティビルカ、スベ、ワウラ、チャンカイ、チョン、リマック、ルリン、チルカ、マラ、オマス、カニエテ、南部海岸では、チンチャ、ピスコ、イカ、ナスカ、アカリ、ヤウカ、と続く。（図1参照）

そこで海岸部における遺跡の調査も各河川の流域である河谷ごとに行なわれる傾向にあり、出土品につける整理番号にも各河谷ごとに定められた番号が用いられている。

例えば、このワウラ川の場合は PV-41 を冠するのである。

それはともかくとして、このワウラ川の流域が後述するようにチムー文化とチャンカイ文化の接点に位置するアンデス考古学上重要な地域であるにもかかわらず、いまだ総合的な調査が行なわれていないことが、今回この地域を調査する要因の一つとなった。

7月12日、リマに到着した一行は早速、国立人類学考古学博物館に館長のビクトル・ピメンテル・グルメンディ氏を訪ね、調査方法について話し会った。その結果発掘調査については、

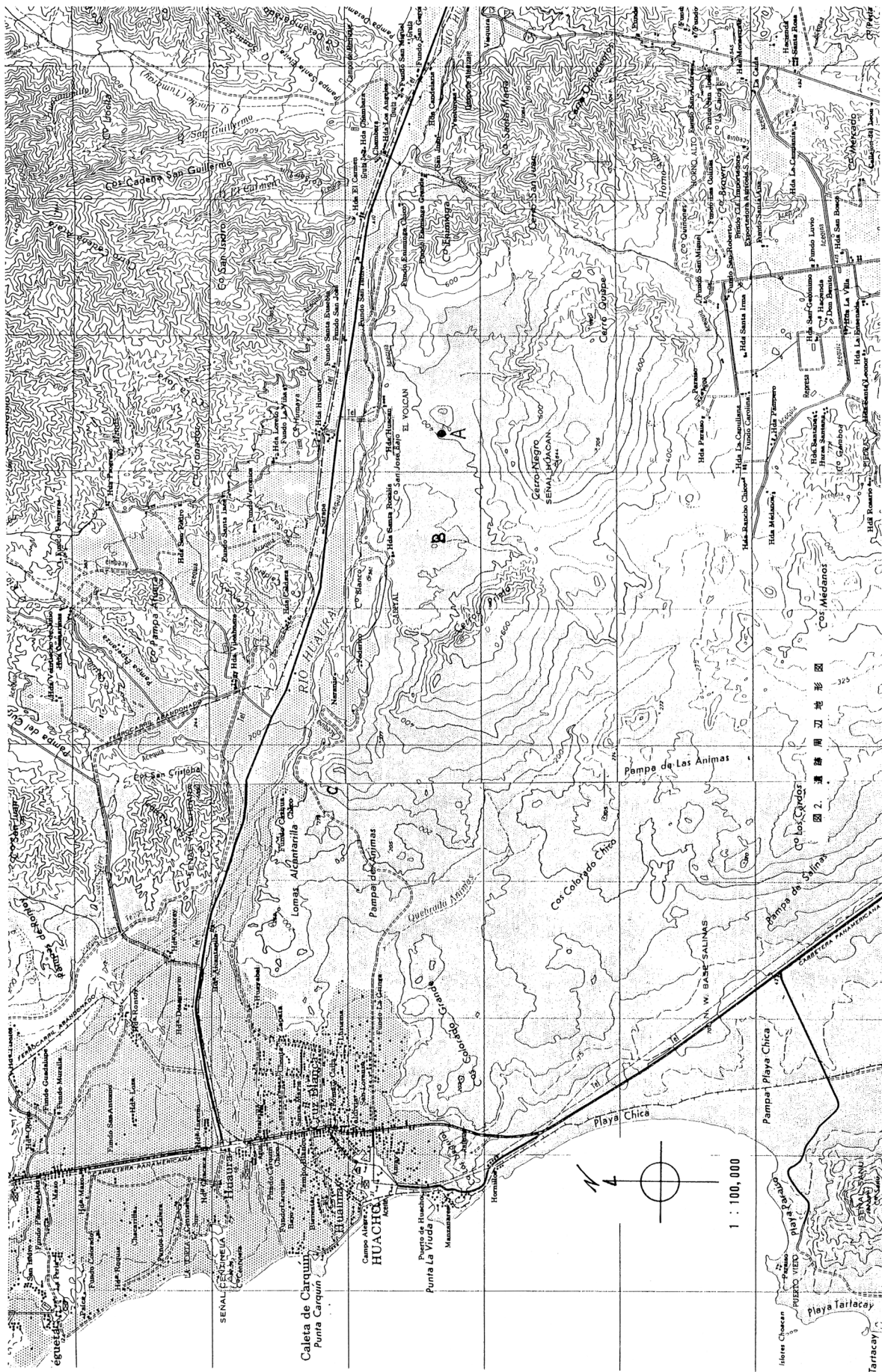


图 2. 潘德南辺地形图

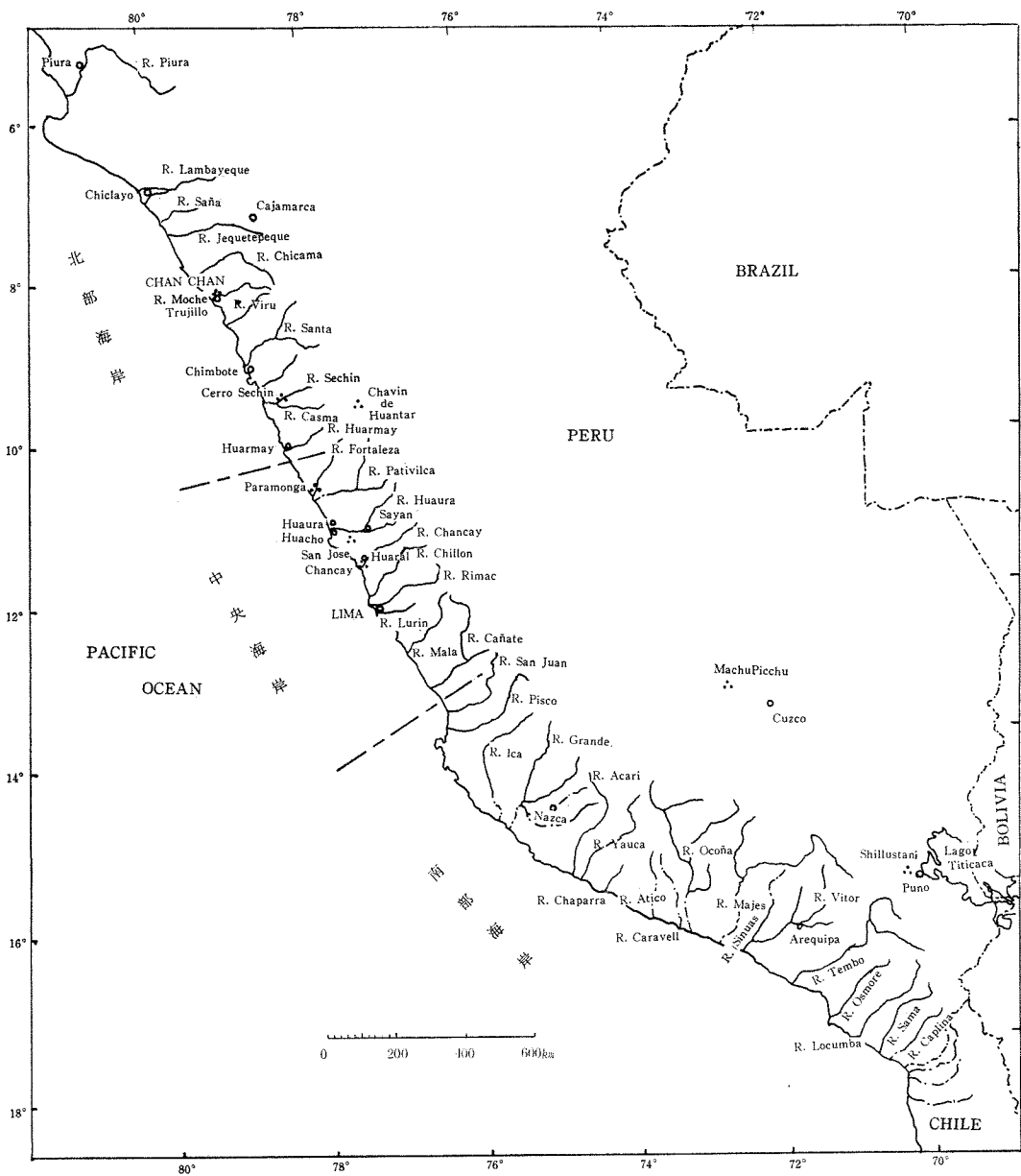


図1 ペルー沿岸部の河川

1. 博物館側からは形成人類学主査のイルダ・ビダル博士が参加すること。
2. 本格的な発掘を行なうには日数も限られており、資材の準備も不十分なことから一般調査にとどめること。
3. 文部省当局に調査の許可申請を早急に提出すること。

等が決定した。勿論、今回の調査に当っては本格的な発掘調査の計画はなく、予備的な調査のつもりであったため、日本からは資材を準備せず、必要な道具類は現地において調達できると考えていたのであるが、簡単な測量道具さえ入手困難であることが判明したことは最大の誤算といえよう。

しかも調査の許可は申請してから最低でも二週間はかかるとのことであり、後日出土品等の整理に要する日数を考慮すると遺構の発掘調査はとても不可能であると判断された。

そこで調査の許可証が交付されるまでの期間は、民俗音楽担当の畑氏の調査を進め、一方では亀田氏の灌漑用水の調査を続けるとともに、筆者は既知の重要な遺跡の見学調査に当ることとし、更には調査予定地の視察を行ない調査計画を立て、必要な資材を可能な限り購入するなどして調達することにあてた。

幸いペルートヨタの好意によってランドクルーザー 1 台の提供を得ることができたので機動力を駆使して比較的短期間に多くの遺跡を巡見することができた。⁽¹⁾

一方調査に必要な資材の調達については天野博物館やペルー日本人学校の向井勇氏のひとかたならぬ御協力を得て、現場におけるキャンプ用品、簡単な概念図を作成するためのクリノメータ、巻尺、折尺、水糸、画板等迄を揃えることができた。本来であれば、予備調査といえども正確な平面図を作成するため平板測量の実施が不可欠なのであるが、残念ながら次回の調査にゆだねることとなった。

以上のような経緯から、今回の調査では、人員、日数、資材の関係もあり遺構の性格を概念図の作成と表面採集によって得られた遺物から考察し、将来の本格的な調査に備えることとしたのである。

7月30日、亀田氏と筆者とでまず現地に行き、作業員の手配及び現状の把握を行ない具体的な調査計画が練られた。

文部省から調査許可証が交付されたのは、途中に独立記念祭をはさんだため8月8日であった。このため現地調査の日程は9日から11日までと非常に限られたものとなったが、現地にテントを張り泊り込むことによって僅かながらも時間の活用をはかり、作業員のファン・ピアノヴァ氏らも午前5時頃には作業を開始して協力して貰えたので短期間にしては効率よく調査を行ない得た。

第2章 位置と環境

ランバイエケ川 (R. Lambayeque) 流域からカニエテ川 (R. Cañete) 流域にいたるペルー北部及び中央海岸部は霧の多い亜熱帯性気候地域に属す。年間降水量が少なく南部海岸ほど大きくはないが海岸砂漠を形成しており、オアシス以外は農耕に適していない。ただ霧のある7カ月間程は僅

かに植物の成育する「ロマス」とよばれる低い丘があり放牧が行なわれる。

ワウラ川流域もこのような気候の典型であり河川を離れると直ぐに砂漠が広がっている。

遺跡の所在地はリマの北方135kmのワチヨ（Huacho）の町から東方約24kmはいった San Jose と呼ばれるワウラ川の左岸に広がる砂漠の中である。（図2，A地点）

リマからワチヨまでは舗装されたパンアメリカン道路で2時間半程のドライブであるが，ワチヨから遺跡までは未舗装の悪路に続いて途中からは砂漠を横断することになる。ワウラ（Huaura）からサヤン（Sayan）に抜けるワウラ川右岸の舗装道路もあるが，この道から遺跡に行くためには橋をかけなくてはならず自動車では不可能であった。

目的とする遺跡の附近にはワウラ川からの用水路が掘られ入植者の手によって部分的に農耕が行なわれている。情報ではこの遺跡には通称「六本指」と呼ばれる男がいて職業的な盗掘者も手をつけていないということであったが，現場に着いてみるとその男はすでに他所へ移住してしまっており，遺跡は全面にわたって盗掘者の手によって掘り返されたあとが認められ，人骨や土器等の遺物が散乱している有様であった。

地形的には Cerro Negro の北側に伸びる台地にある標高500m程の 小丘の中腹に 西側に広がる低地をみおろす形で遺構は存在している。

Cerro Negro 北東には Cerros Prieto という砂の丘が伸びているが遺構からはこの丘が西正面に低地をはさんでみえている。（写真1参照）遺跡の西側から南側にかけて廻りこむようにして用水

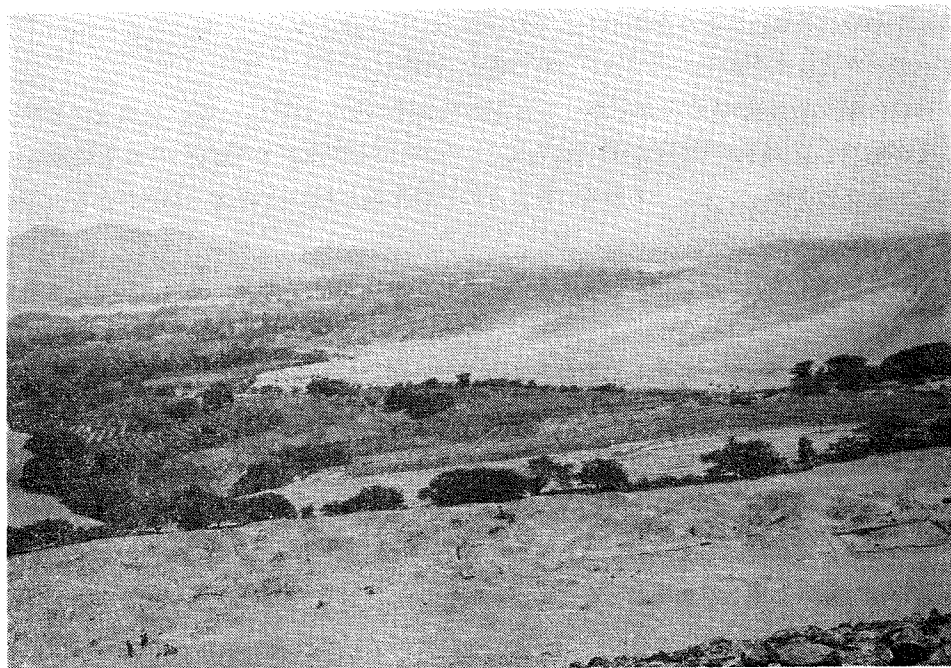


写真1 遺跡から西を望む。左手の丘が Cerros Prieto。

路が巡らされ現在も利用されているが、この用水路の築造時期については現在のところ不明である。

一方この遺跡の周辺には未調査の遺跡が多くある模様で、⁽²⁾ この地域が現在は砂に覆われているものの、かつては緑地であったことを窺わせる。余談ではあるが本年はエル・ニーニョ現象でペルー北部は4カ月にわたって雨が続き大洪水となったが、水のひいた後の砂漠に多くの植物が芽を出している光景を目にすることができた。ペルー海岸部に多く存在する遺跡を考える上では自然現象の変化を考慮する必要があるのではないだろうか。

第3章 遺構と遺物

1. 建造物について

盗掘者の手によって表面の砂がかなり除かれており、アドベの壁が所々露出していた。そこでそれらの壁面の延長線上に覆っている砂を除去して作成した概念図が図3である。⁽³⁾

図によれば、このアドベによる建造物は東側の丘を背景に西に広がる低地に向かって南北にひろがりを見せていることが判明する。

遺構の中軸線を示すと考えられる中央の東西にのびるアドベの壁は^(A) 主軸方向W—20°—Nを指している。アドベ露出地域の西側から北側にかけては比高2m程の急斜面^(B)を呈しており建造物の存在の西、北限を示す。

東側は小高い丘となっており斜面にもアドベの壁の一部が存する。^(C)

アドベ壁の存在は東西約89m南北約115mの範囲で確認された。

アドベ壁の配列は中央の中軸線を示すと考えられる壁に対して平行、或いは直交する形であるが、全てが整然と配列されているわけではなく、特に中央南側のアドベ壁群^(D)は中軸線に一致していない。またアドベの壁面による外周はかなりの凹凸がみられ、この建造物自体かなり複雑な外形を持っていると思われる。

アドベ壁の厚さについては45cmが最も多くみられたが他に30cm、35cm、55cm、80cmのものもみられ一定ではない。

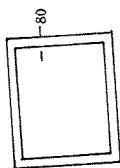
さらに壁面に黄色の顔料で彩色した部分とそうでない部分があるが、本来彩色されていたものが剥落したものか、もともと彩色されていなかったのかは、にわかに判断できなかった。

中軸線に一致しないアドベ壁、及び彩色されていないアドベ壁が剥落によるものでないとするならば、それらの建造物は彩色されている建造物とは若干性格を異にするとみなければならないであろう。その場合、可能性としては彩色されている建造物に附属したものであるか、全く別個のものとするのか二通りの場合があるが、今後の調査課題としておく。更に注目すべき点としては、西側のほぼ中央に存在するアドベの柱^(E)には黄色の顔料によって、鳥とみられるモチーフによる絵が画かれていること。(写真2参照)

— 45 —
(C)

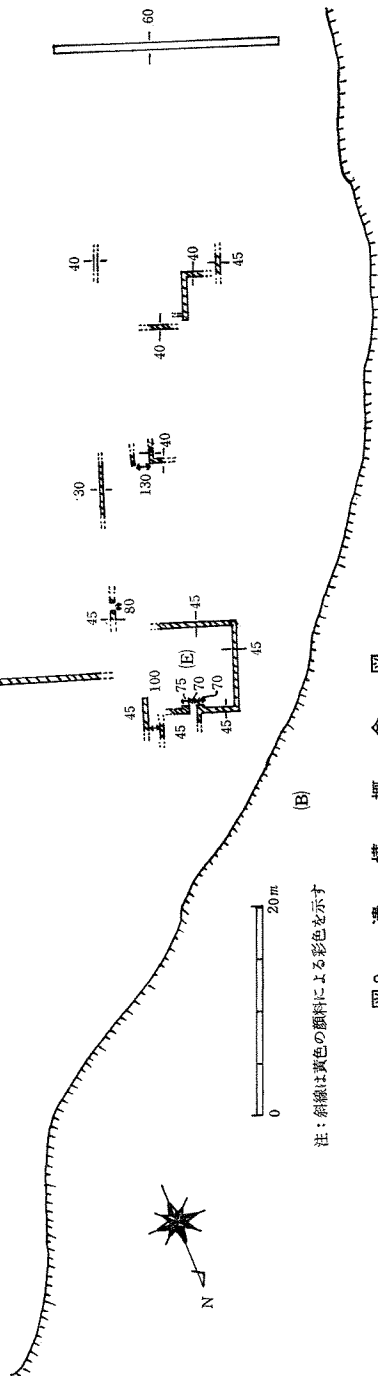
— 30 —

— 45 —
— 45 —
— 40 —
— 45 —
— 40 —
— 35 —
— 45 —
— 30 —
— 35 —
— 45 —
(D)



— 55 —
— 30 —
— 45 —
— 60 —
— 45 —
— 30 —
— 80 —
— 45 —
— 80 —
— 80 —

— 45 —
— 100 —
— 80 —
— 80 —
— 45 —
(A)



注：斜線は黄色の顔料による彩色を示す

図3 遺構概念図

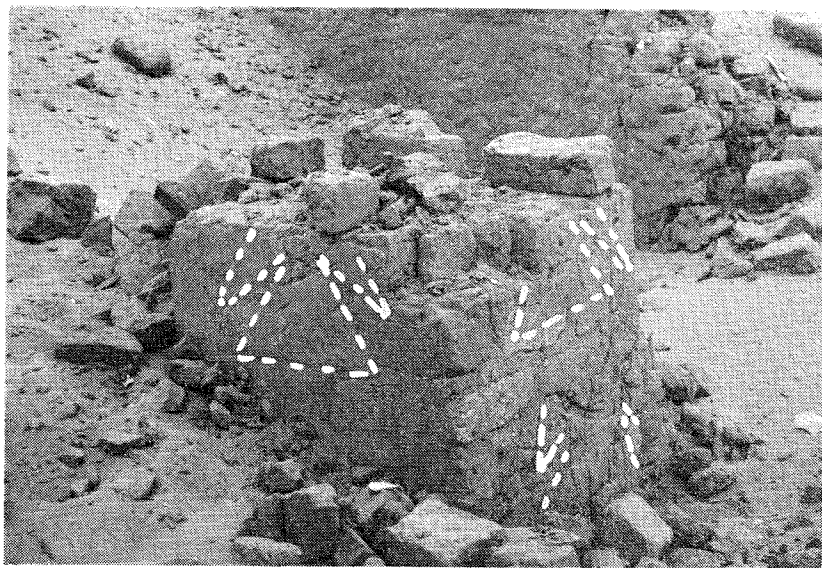


写真2 鳥とみられるモチーフによる絵が画かれたアドベの柱

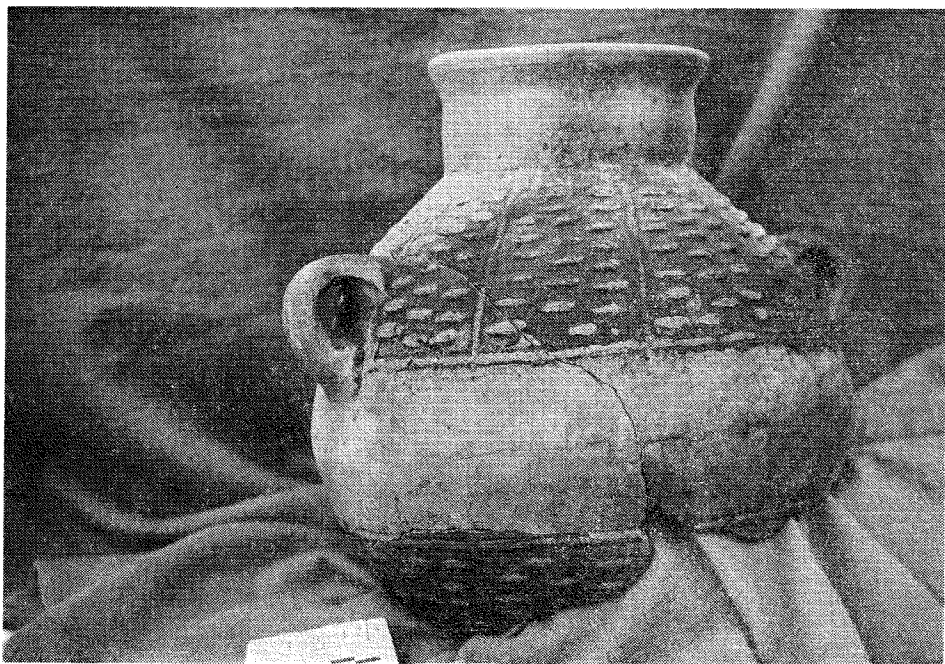


写真3 ラウリ文様を有す OLLA

遺構の中央に直径14m程の自然石が露出しており^(F)、建造物はこの自然石を囲むようにして建てられていること。

判明した限りにおいて柱をもった出入口が東に向って東側に2カ所、北に向って西側に1カ所あることなどが挙げられる。

以上の特徴のうち、特に黄色の顔料が塗られていること、規模が相当に大きくしかも周囲に広がりを持たない独立した建造物であること、更には中央の巨石が建造物と何らかの関係を持つと考えられること等からこの建造物は単なる住居址とは考えられず、特別の、例えば祭祀にかかわるような遺構と考えて良いものと思われるが早急に結論を出すことは控えておきたい。

なお(A)～(F)は図3における位置を示す。

2. 土器について

表面採集によって得られた土器は表1の通りである。⁽⁴⁾ 完形品は少なく殆どが破片であるが種類は、OLLA(壺状の土なべ)31点、CÁNTARO(水がめ)18点、(CHINA CÁNTARO 4点を含む)、PLATO(皿)14点、VASO(コップ)3点、TAZA(湯呑み)3点、CUENCO(ボール)3点、CUCHIMILCO(未焼成の土偶)4点、と多岐にわたっている。

これらの土器には、SAPO(C-20)やPUMA(C-6)の装飾を持つものや(写真5参照)CHINA CÁNTARO(C-18, 29, 53, 75)の破片、及びLAURI IMPRESO(ラウリ文様)とよばれる突起紋を有するもの(C-42, 63, 70, 101, 119)(写真3参照)、あるいはRojo Sobre Blanco(白地赤彩文様, R/Bと略す)(C-7, 8, 9, 10, 11, 12, 13, 14, 15, 16, 17, 18)(写真4参照)が

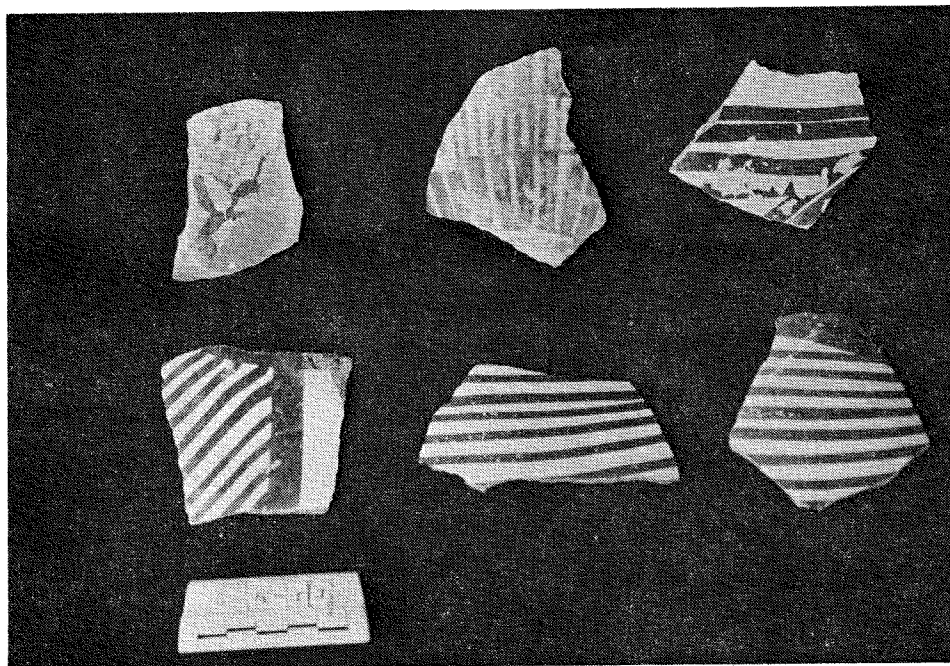


写真4 白地赤彩文様の土器片

みられる。

このような特徴はこれらの土器がいわゆるチャンカイ (CHANCAY) 文化に属するものであることを示しており⁽⁵⁾、この遺構の年代決定の資料として貴重である。

全てが表面採集によって得られたものであるため土器の数量分布による推測は控えたいが、OLLAやCANTAROの中にはかなりの割合で、(例えばOLLAの場合、判定可能な24個のうち9個)使用の痕跡を持たないものがある。おそらくは祭祀、あるいは葬儀の副葬品とみて良いであろう。

3. 織物、その他について

織物、その他の遺物も全て表面採集によって得られた。その品目は表2の通りである。

織物については筆者の能力不足から未だ分析を行っていない。そのため種類、材質、使用目的等については改めて専門家の研究にゆだねなければならない。

ただ布帛のほとんどは MOMIA (ミイラ) を包んでいたものか副葬品とみて良い。写真6はミイラの足に布が巻かれた状態を示している。

全体的にみて上質なものは少なく、粗末なものしか採集できなかったが、それらは盗掘者によって持ち去られたためと思われる。

これらの布のうち写真7などは国立人類学考古学博物館の織物研究者の教示によれば、チャンカイ文化の特徴を備えているという。⁽⁶⁾

その他の遺物としては、MAYO (槌) (M-1、恐らく洗濯に用いた道具と思われる) や CALL HUA (桴杓) (M-2, 3) などの木製品 (写真8参照)、かぼちゃの皮製容器 (M-5)、とうもろ

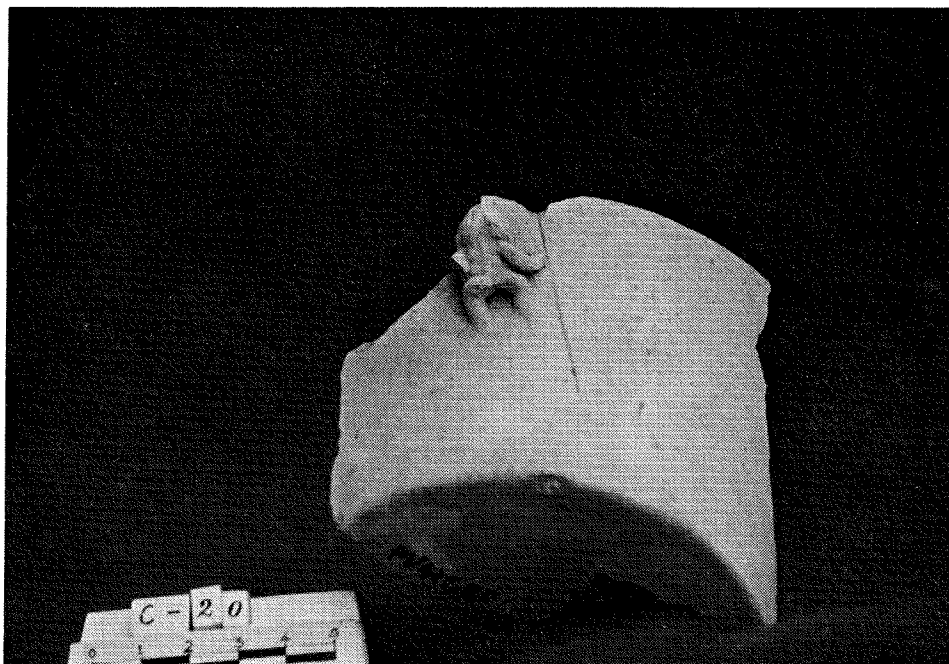


写真5 Sapo の装飾をもつ TAZA

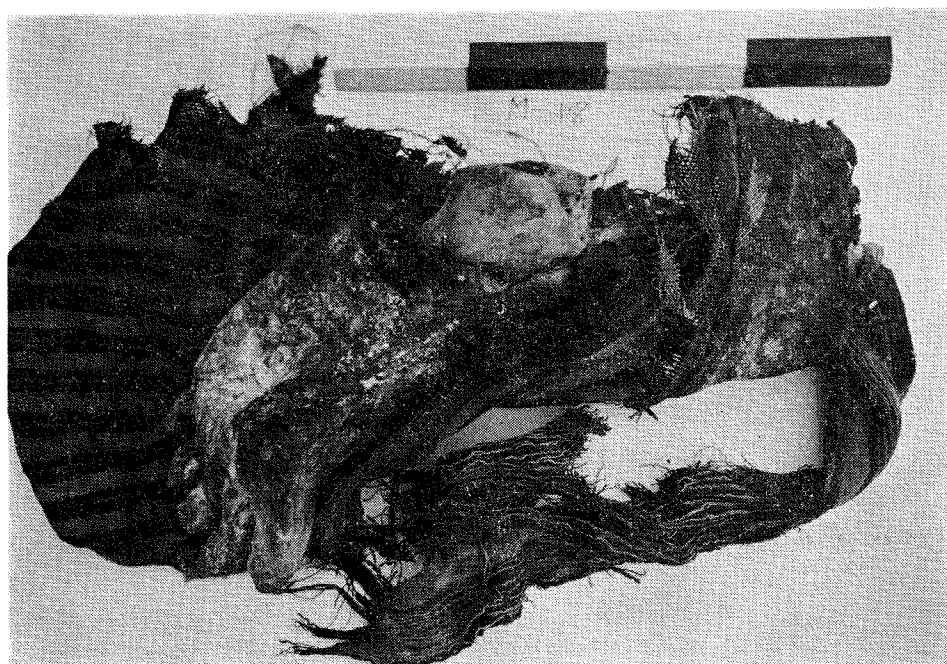


写真6 ミイラの足に布が付着している。

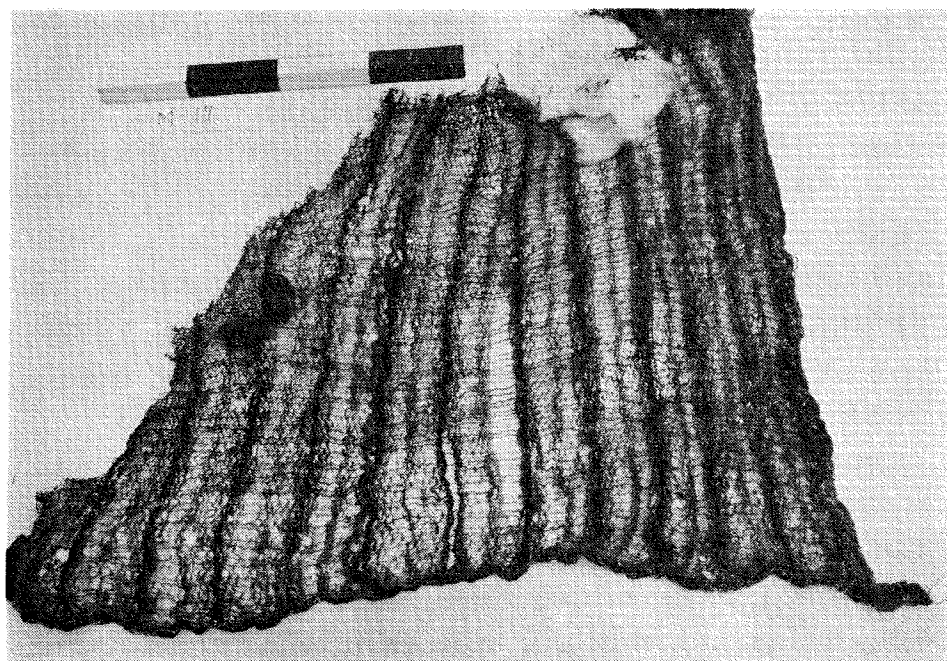


写真7 チャンカイ文化の特産，紗

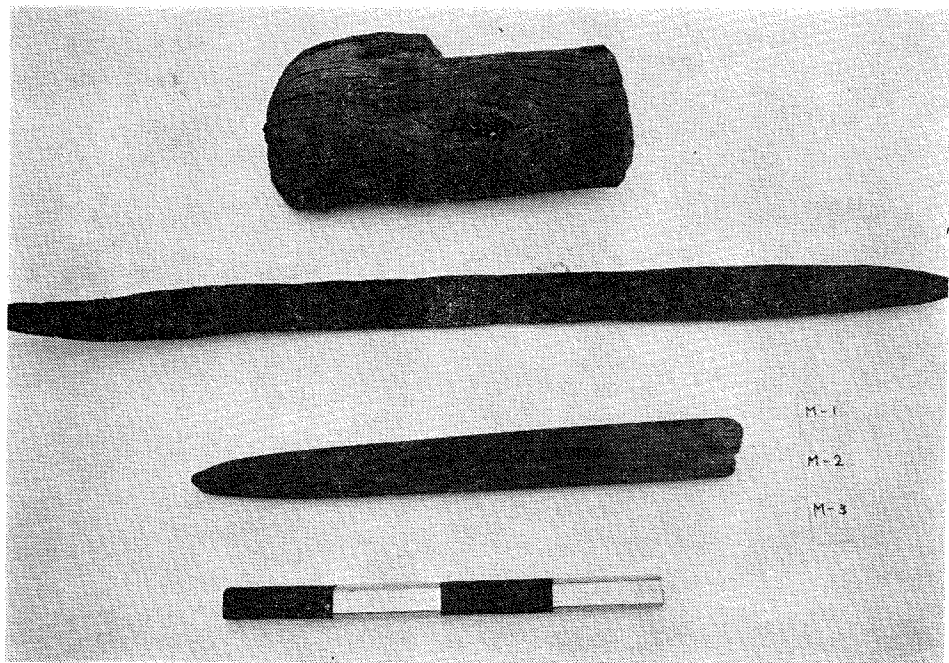


写真8 木製品, MAYO. と CALLHUA.

こしのじく, (M—4, 6) などの食料, 竹に糸を巻きつけたもの (M—7, 10, ミイラの所在を示す標識といわれる) などが採集された. このような遺物は日常生活用品と思われるが, 或いは副葬品であったとも考えられる. 後考をまちたいと思う.

4. 人骨について

人骨は表3にあげた通り104点採集された. これらの人骨, 及び今回は整理の都合上リストが未完成になっている獣骨については, イルダ・ビダル博士が担当して研究を進めつつあるのでここではその概略について述べておきたい.

これらの人骨は最も数の多い大腿骨 (Femur) (42本) を指標にすると内わけは, 女性, 右13本, 左7本, 男性, 右9本, 左10本, 不明3本であるので, 最低で男性10体分, 女性13体分あり, このことから推測すれば, 最低23体分はあることになる. (破片, 及び判定に若干の疑問あるものも含めてある)

また, 人骨全体の男女の性別比較をみてみると, 52対30で女性の方が多いことがわかる.

頭蓋骨 (Cráneo) は完全な形のものが5体発見されたが, 頭骨変形を受けたものも含まれている. (H—1, 2) (写真9参照)

イルダ・ビダル博士によれば, これらの人骨は他所の墓地等で発見されている人骨に比較すると極めて健康者のものが多く病気の少ないこと, 女性の人骨の比率が高く, しかも身長はかなり高いものが多くみられるという.

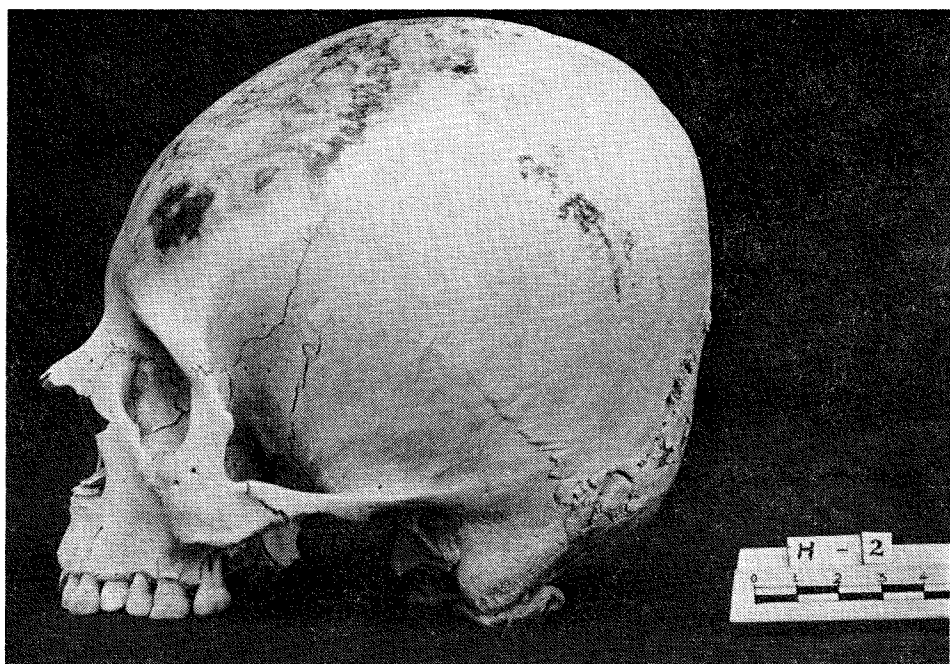


写真9 頭骨変形をうけた女性の頭骸骨

なお、獣骨については調査が進んでいないがヤーマ (Llama) という アンデス山地特有のラクダ科の動物の骨がいくつかみつまっていることを附記しておく。

これらの人獣骨の分析が更に進めば、この遺構の性格もより一層明確になるであろう。

結 語

本遺跡は出土する土器や織物からみて、12～13世紀ペルー中央海岸部で発達したチャンカイ文化の特徴を備えており、他の時代や文化を示す遺物は今のところ知られていない。

建造物については、祭祀を目的とした、例えば、神殿のような建て物が推測される。

結論は本格的な調査にまたねばならないが、今回の調査で本遺跡の西方約 700 mの地点から更に西に向かって拡がっている Cerror Prieto の東麓全域の砂の下に都市の遺構が発見され、しかもそこから出土する土器片も本遺跡と同じチャンカイ文化のものであることを考慮すると、本遺跡はこの都市と関係のある神殿であった 可能性が高い。(図2, B地点)(写真10は本遺跡より都市遺跡を望んだもの)

次回の調査では当然この都市遺跡も調査しなくてはならないであろう。

表4は L. G. ルンブレラスの作製した中央アンデス各地域の年代序列間における編年表⁽⁷⁾のうち、北部海岸から中央海岸部にかけての部分であるが、ワルメイ (R. Huarmey) 流域からこのワウラ流域にかけては記すところがない。

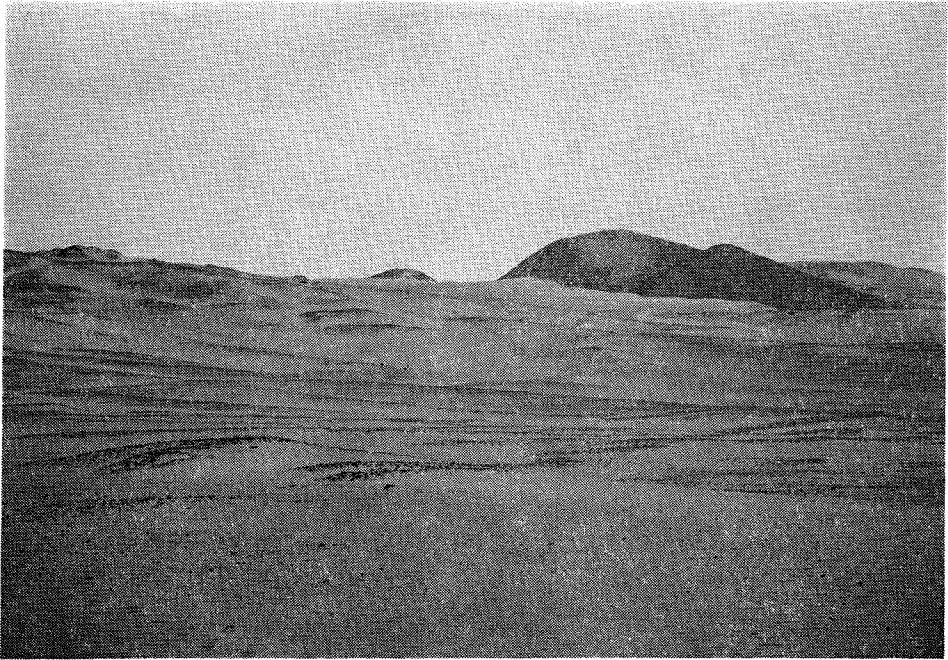


写真10 本遺跡西の砂中に埋もれた都市遺跡 黒くみえるラインがアドベ壁の埋没を示している。

この両流域間においてフォルタレサ (R. Fortaleza) 流域にはパラモンガの城砦遺跡が存在することによって、いわゆる地方国家の時代にはこの流域まではチムー文化の版図に含まれていたことが確認されるのである。

一方、ロウ, J. H. の研究によれば⁽⁸⁾, チムーの版図はインカに征服される直前には、北はトゥンベスから南はチョン (R. Chillon) 流域に及んでいたという。とするならばワウラ流域においてもチムー文化の痕せきが発見される可能性はある。

ただロウの研究はクロニカを博搜することによって行なわれており 出土遺物によって証明されたものではないようである。従ってこの点も今後の調査目標となろう。

チムー文化と同時期に中央海岸部においてチャンカイ文化が発達していたことは良く知られている。

チャンカイ文化については故天野芳太郎氏が特別の関心を持たれて多くの遺物を収集され、その収蔵品を天野博物館において公開されたことによって、質の高い織物と素朴な中にもあじわい深い土器は世界的に知られるところとなっている。⁽⁹⁾

ところがこのチャンカイ文化については、その範囲がどこまで広がっていたのか、中心になる地域はどこであるのか、また政治的組織によって統合されていたのかという根本的な問題が残されているのである。

既に知られているチャンカイ文化の遺跡としてはチャンカイ川流域のビスキヨ・チコ、ラウリ、ルンブラの各遺跡、チョン川流域のサパヤン遺跡、アンコンの大墓地などがあるが中心地域がどこ

であったかについては不明である。

このワウラ川流域の遺跡がそれらの遺跡とどのような関係にあるのか、又チムー文化の影響が及んでいるとするならば、どのような影響であったのか、解決すべき問題は多くあり、これらの問題を考えることによって、チャンカイ文化解明の糸口もつかみ得るのではないだろうか。今後の課題としたい。

註

- 1) 巡見調査した遺跡は次の通り。チャビン・デ・ワントル、フォルタレサ・デ・バラモンガ、チャンチャン、ワカ・デル・ソル、ワカ・デ・ラ・ルナ、ワカ・デ・ラ・エスメラルダ、ワカ・デル・ドラゴン、セロ・セチン、クンペマーヨ、マチュピチュ、サクサワマン、タンボ・マチャイ、プカ・プカラ、シユスタニ。
- 2) 後述する図2のB地点の他、C地点は墳墓と思われ、チャンカイ文化の土器や人骨が無数に散乱している。
- 3) 何分、クリノメータによって水系をはり巻尺で実測した図であるため精度は期し難いが遺構の概要は示し得ると思われる。
- 4) 出土品一覧表のうち、土器、織物、その他については筆者が、人骨についてはイルダ・ビダル博士が作成に当たった。適当な訳語がない場合が多いのでスペイン語を使用しておく。
- 5) L.G. ルンブレラス、増田義郎訳『アンデス文明』P.205参照
- 6) L.G. ルンブレラス前掲P.206によれば「紗はこの文化の特産であり、ひじょうな芸術性と技巧技能をあらわしている」という。
- 7) 前掲書
- 8) The Kingdom of Chimor. Acta Americana,
- 9) 天野芳太郎、義井豊、『ペルーの博物館』
附記。今回の調査に当って参加を許可された山手学園に感謝の意を表したい。

(補註) 図2 遺跡周辺地形図の縮尺は10万分の1である。

出土品一覽

表1 CERAMICA (土器)

No.	ESTRATO	OBSERVACIONES	DIMENSIONES
PV41—1—1 C—1	SUPERFICIE	FRAGMENTO DE "CUCHIMILCO" (CERAMICA CRUDA)	6×6cms
C—2	"	"	6×7.5
C—3	"	"	7×8.8
C—4	"	"	3.5×7
C—6	"	BORDE DE PLATO CON APLICACION DE MURCIELAGO O PUMA?	6×9
C—7	"	FRAGMENTO R/B	3×5
C—8	"	FRAGMENTO R/B	5×5.5
C—9	"	FRAGMENTO R/B	6.5×8
C—10	"	FRAGMENTO R/B	5×7.5
C—11	"	FRAGMENTO DE CÁNTARO R/B	5.5×5.5
C—12	"	FRAGMENTO R/B	4.5×8.5
C—13	"	FRAGMENTO R/B	7×7.5
C—14	"	BORDE DE OLLA R/B	8×9.5
C—15	"	FRAGMENTO R/B	6×10
C—16	"	BORDE DE OLLA R/B	7×9
C—17	"	BORDE R/B	6×6.5
C—18	"	FRAGMENTO DE CHINA CANTARO R/B	9×10.5
C—19	"	BORDE DE VASO	7.5×12.5
C—20	"	TAZA CON APLICACION DE "SAPO"	8×10
C—21	"	VASO CON APLICACION DE "MURCIELAGO" O"?	口径10, 高13
C—22	"	BASE DE VASO	底径7, 高11
C—23	"	GUARDILLA	3.5×4
C—24	"	BORDE DE CUENCO	8×11
C—25	"	BORDE DE PLATO	7.5×8.5
C—26	"	FRAGMENTO DE "FIGURINA"	6×7.5
C—27	"	BORDE DE CANTARO	7×7.5
C—28	"	BORDE DE CANTARO	5×5
C—29	"	FRAGMENTO DE CHINA O CANTARO	8×9.5
C—30	"	BASE DE TAZA	5.5×8
C—31	"	FRAGMENTO DE CANTARO	6×6.5
C—32	"	FRAGMENTO DE PLATO	6×6.6

No.	ESTRATO	OBSERVACIONES	DIMENSIONES
PV41—1—1 C—33	SUPERFICIE	FRAGMENTO DE CÁNTARO	5.5×5.5
C—34	"	"	6.5×8
C—35	"	BORDE DE CÁNTARO	6.2×8.2
C—36	"	FRAGMENTO DE CÁNTARO	5×7
C—37	"		4.5×7
C—38	"	BORDE DE PLATO	4×11
C—39	"	FRAGMENTO DE OLLA "MAIZ"	5.5×7
C—40	"	BORDE	3.5×7
C—41	"	} DOS FRAGMENTOS DE PLATO (BASE) LAURI IMPRESO	4×4
C—42	"		4×5
C—43	"	CÁNTARO CON LINEAS RECTAS Y ON- DEADAS	7.5×11.5
C—44	"	PLATO CON ARCILLA BLANCA	6×8
C—45	"	BORDE DE OLLA	4×10
C—46	"	} DOS FRAGMENTOS DE TAZA	6.5×7
C—47	"		4.5×6.5
C—48	"	OLLA CON ENGOBE ROJO (BORDE)	口径10cm
C—49	"	FRAGMENTO DE CÁNTARO	3×5
C—50	"	BORDE DE PLATO	4×6.5
C—51	"	BORDE DE PLATO	6×6
C—52	"	FRAGMENTO	1.5×3
C—53	"	FRAGMENTO DE CHINA O CÁNTARO	18×27
C—54	"	OLLA CEREMONIAL	11×13
C—55	"	OLLA CEREMONIAL	10.5×11
C—56	"	OLLA UTILITARIA	12×13
C—57	"	OLLA CEREMONIAL	11×15
C—58	"	OLLA UTILITARIA	10×14
C—59	"	OLLA CEREMONIAL	7×9
C—60	"	OLLA CEREMONIAL	6×13
C—61	"	FRAGMENTO DE BORDE DE CÁNTARO CEREMONIAL	7×10
C—62	"	OLLA CEREMONIAL	8×15
C—63	"	DOS FRAGMENTOS DE OLLA UTILITARIA; COMPLETA CON "LOS No. 96; DECORACION LAURI IMPRESO"	13×15

ワウラ川 (RIO HUAURA) 流域遺跡調査概報

No.	ESTRATO	OBSERVACIONES	DIMENSIONES
PV41—1—1 C—64	SUPERFICIE	FRAGMENTO	4.6×5.1
C—65	"	OLLA UTILITARIA	6×9
C—66	"	} TRES FRAGMENTOS DE OLLA CEREMONIAL ; COMPLETA CON LOS No. 37	7.5×9
C—67	"		15×15
C—68	"	OLLA UTILITARIA	10×12
C—69	"	BORDE DE OLLA	口径12.5, 高12
C—70	"	OLLA CON DECORACION "LAURI IMRRESO"	
C—71	"	FRAGMENTO DE CÁNTARO CEREMONIAL	6×8
C—72	"	"	5×6
C—73	"	OLLA CEREMONIAL	8×10
PV41—1—2—C—74	"	FRAGMENTO DE CUENCO	14×15
PV41—1—1—C—75	"	FRAGMENTO DE CHINA O CANTARO	19×23
C—76	"	FRAGMENTO	5×6
C—77	"	} CINCO FRAGMENTOS DE CUENCO	7.5×9
C—78	"		2.5×3.5
C—79	"		1.5×1.8
C—80	"		2.8×3
C—81	"		1.5×2
C—82	"	FRAGMENTO	6×6
C—83	"	} FRAGMENTOS DE OLLA UTILITARIA DE BASE REDONDA (CON RESTOS DE COCINA)	高17cm 4×5
C—84	"		3×6
C—85	"		10×11
C—86	"		5.5×11
C—87	"		10.5×15
C—88	"		13×15
C—89	"	FRAGMENTO DE OLLA UTILITARIA	16.5×25
C—90	"	} CINCO FRAGMENTOS DE OLLA UTILITARIA ; COMPLETA CON LOS NUMEROS ; No. 105	1.9×2.5
C—91	"		2.8×5
C—92	"		2.5×3.5
C—93	"		口径10, 高19
C—94	"		2.3×4

No.	ESTRATO	OBSERVACIONES	DIMENSIONES
PV—41—1—1C—95	SUPERFICIE	PLATO DE BASE REDONDA	8×10
C—96	"	FRAGMENTO DE CANTARO CON GRANULACION	5.5×6
C—97	"	BASE DE PLATO	底径7.3
C—98	"	BASE DE PLATO	底径7.5
C—99	"	PLATO	径18, 高6.5
C—100	"	PLATO	径19, 高6.5
C—101	"	PLATO "LAURI IMPRESO"	径19, 高7
C—102	"	MEDIA PARTE DE OLLA UTILITARIA CON ASA TRENZADA	口径10, 高16
C—103	"	} DOS FRAGMENTOS DE OLLA UTILVARIA	3×3
C—104	"		口径12.2, 高24
C—105	"		6×9
C—106	"	BORDE DE OLLA CEREMONIAL	口径11.4, 高6
C—107	"	MEDIA PARTE DE OLLA UTILITARIA ASA TRENZADA	口径10, 高16
C—108	"	"	口径8, 高14
C—109	"	"	口径11, 高12.5
C—110	"	} NUEVE FRAGMENTOS DE OLLA UTILITARIA	1.7×3.5
C—111	"		2.7×4.9
C—112	"		4.5×5
C—113	"		4.5×5.5
C—114	"		2×4.5
C—115	"		2.5×4.3
C—116	"		2.2×2.5
C—117	"		2.7×4.2
C—118	"		口径13, 高13
C—119	"		4×5
C—120	"	} SIETE FRAGMENTOS DE OLLA UTILITARIA CON DECORACION "LAURI IMPRESO"	3.2×5.5
C—121	"		6×7.5
C—122	"		7×13
C—123	"		7×11.5
C—124	"		12×21
C—125	"		口径12, 高23

表2 TEJIDOS Y MATERIAL ORGANICO (織物その他)

No.	ESTRATO	OBSERVACIONES	DIMENSIONES
PV-41-M- 1	SUPERFICIE	MAZO	9×19cms
2	"	} UTENSILIO DE TEJIDO "CALLHUA"	3×48.5cms
3	"		3×27cms
4	"		10×11cms
5	"	COMIDA HECHA DE MAIZ	13×11×8cms
6	"	VASIJA DE "CALA BAZA"	5~10cms
7	"	MASLO DE MAIZ (10)	18cms
8	"	SIGNO DE TUMBA	11cms
9	"	CUERDA	90×80cms
10	"	TEJIDO CON ALGODON	18cms
11	"	SIGNO DE TUMBA	46×135cms
12	"	TEJIDO	15×127cms
13	"	TEJIDO	17×180cms
14	"	TURBANTE	11×70cms
15	"	TURBANTE	15×15cms
16	"	TEJIDO	20×49cms
17	"	TEJIDO CON ALGODON	40×40cms
18	"	TEJIDO CON PIE DE MOMIA	17×17cms
19	"	TEJIDO USAR PELD	30×33cms
20	"	TEJIDO USAR PELO	33×36cms
21	"	TEJIDO USAR PELO	40×35cms
22	"	TEJIDO USAR PELO	32×35cms
23	"	TEJIDO USAR PELO	26×30cms
24	"	HILOS	
25	"	TEJIDO	30×60cms
26	"	TEJIDO	27×29cms
27	"	TEJIDO	16×27cms
28	"	CAMISETA "UNCU"	65×65cms
29	"	TEJIDO DE ENCAJE	33×36cms
30	"	TEJIDO	20×34cms
31	"	TEJIDO	7×51cms
32	"	TEJIDO	16×51cms
33	"	TEJIDO	25×30cms

No.	ESTRATO	OBSERVACIONES	DIMENSIONES
PV-41-M-34	SUPERFICIE	TEJIDO	18 × 39cms
35	"	TEJIDO DOS NUDOS	35 × 35cms
36	"	GAZA NUDO	70 × 70cms
37	"	TEJIDO RED	18 × 35cms
38	"	HILOS	
39	"	TEJIDO	2 × 10cms
40	"	BOLSA	20 × 28cms
41	"	TEJIDO	20 × 45cms
42	"	TEJIDO	18 × 20cms
43	"	TEJIDO	20 × 40cms
44	"	TEJIDO	7 × 28cms
45	"	TEJIDO	8 × 24cms
46	"	TEJIDO	11 × 25cms
47	"	RED NUDO	15 × 80cms
48	"	TEJIDO	32 × 44cms
49	"	GAZA	
50	"	GAZA	100 × 120cms
51	"	GAZA	40 × 50cms
52	"	GAZA	35 × 40cms
53	"	GAZA	25 × 30cms
54	"	TEJIDO	80 × 200cms
55	"	TEJIDO CON MOTIVO DE PELICANO	10 × 40
56	"	GAZA	42 × 45cms
57	"	GAZA	32 × 45cms
58	"	GAZA	105 × 105cms
59	"	TEJIDO	55 × 80cms
60	"	TEJIDO	25 × 62cms
61	"	TEJIDO	77 × 95cms
62	"	TEJIDO	28 × 90cms
63	"	TEJIDO	32 × 60cms
64	"	TEJIDO	32 × 35cms
65	"	TEJIDO 21PEDAZOS	
66	"	MOTA DE ALGODON	30 × 35cms

表3 RELACION DE HUESOS HUMANOS DE SUPERFICIE DEL SITIO ARQUEOLOGICO DE SAN JOSE, SAYAN, VALLE DE HUAURA.

No.	NOMBRE Y ESTACO DEL HUESO	SEXO	EDAD	OBSERVACIONES
PV-41-H-1	Cráneo casi completo, falta la cara y base occipital	mujer	joven	Deformación intencional
2	Cráneo completo	mujer	joven	Deformación intencional
3	Cráneo casi completo. Están rotos los aros cigomáticos	hombre	adulto	evidencias de traumatismo con proceso infeccioso en la norma superior
4	Fragmento de cráneo (los dos parietales y occipital insertados)	mujer	joven	evidencias de trepanación supra-iniave. Sin hueso supernumerario en la sutural lambdica.
5	Hueso occipital	hombre	adulto	trepanación suprainiana
6	Tibia derecha completa	hombre	adulto	Patología en la sección media anterior del cuerpo.
7	Tibia derecha completa	hombre	adulto	Patología en la sección media del cuerpo.
8	Cúbito izquierdo completo	?	adulto	Evidencias de fractura en la sección media de superior del cuerpo.
9	Cúbito izquierdo completo	?	adulto	Patología casi en toda la extensión del cuerpo.
10	Femur izquierdo completo.	mujer	adulto	Patología en la epifisis Próxima al, mayormente marcada en la cabeza del femur.
11	Fragmento de tibia	?	adulto	Patología pronunciada en toda la extensión del cuerpo.

PV-41-H-12	Sacro completo		adulto	
13	Cráneo completo conserva cabellera y parte de envoltoria.	mujer	adulto	
14	Cráneo completo, conserva cabellera.	hombre	joven-adulto (no han erupcionado todavía los 3m superiores.)	Deformación intensional.
15	Fémur derecho completo	hombre	adulto	
16	Tibia seccionada longitudinalmente.	?	adulto	
17	Fémur izquierdo	hombre	adulto	
18	Fémur derecho	mujer	adulto	
19	Fémur derecho	mujer	adulto	
20	Fémur izquierdo	mujer	adulto	
21	Media longitudinal de fémur derecho.	mujer	adulto	
22	Fémur derecho completo.	hombre	adulto	
23	Fémur derecho completo.	mujer	adulto.	
24	Fémur derecho completo.	?	joven	
25	Tibia izquierda completa roturas en ambas epifisis.	mujer	adulto	
26	Tibia izquierda completa.	mujer	adulto.	
27	Fémur izquierdo. Falta epifisis distal	hombre	adulto	
28	Húmero derecho completo	mujer	adulto.	
29	Fémur derecho completo	hombre	adulto.	

ワウラ川 (RIO HUAURA) 流域遺跡調査概報

P V-41-H-30	Sacro	mujer	adulto.
31	Sacro	hombre	adulto.
32	Sacro	mujer	adulto.
33	Coxal completo	?	adulto.
34	Costillas con leves roturas	?	adulto.
35	Costilla completa	?	adulto.
36	Fragmento de Coxal	mujer	adulto.
37	Fragmento de Coxal	mujer	adulto.
38	Fragmento de Coxal	?	adulto.
40	Coxal completo	mujer	adulto.
41	Coxal completo	mujer	adulto.
42	Fragmento de Coxal	mujer	adulto.
43	Coxal casi comple	hombre	adulto.
44	Hueso temporal izquierdo	?	adulto.
45	Hueso temporal izquierdo.	?	adulto.
46	Hueso temporal derecho.	?	adulto.
47	Hueso temporal y parte de parietal derecho.	hombre	adulto.
48	Mandibula	mujer	adulto.
49	Cráneo casi completo falta está rota la region facial izquierda y arcos cigomáticos.	mujer	adulto-joven.
50	Fragmento de Sacro.	mujer	adulto.
51	Tibia. Falta de la épifisis distal	mujer	adulto.
52	Fémur. Falta epifisis dital.	?	niño.
53	Tibia derecha con roturas en las epldisis proximal y distal.	hombre	adulto.

PV-41-H-54	Tibia derecha completa.	hombre	adulto.
55	Húmero incompleto. Fal- ambos epifises.	mujer	adulto.
56	Tibia izquierda completa	mujer	adulto.
57	Tibia izquierda completa	?	adulto.
58	Tibia izquierda completa	mujer	adulto.
59	Fémur izquierdo	?	niño con tendencia a joven.
60	Tibia derecha completa. están rotas ambas eplfises.	mujer	adulto.
61	Tibia izquierda completa.	mujer	adulto.
62	Peroné izquierdo completo	?	?
63	Tibia derecha completa	mujer	adulto.
64	Tibia derecha completa	hombre	adulto.
65	Húmero izquierdo completo	mujer	adulto. Presenta perforación olecraneana
66	Peroné derecho incompleto. Falta epifisis distal	?	adulto.
67	Fémur derecho completo. Leves roturas en las apófisis	muejr	adulto.
68	Fémur derecho casi completo	hombre	adulto.
69	Fémur derecho completo	mujer ?	adulto. Muy desgastado el periostio
70	Fémur izquierdo comoletto	hombre	adulto.
71	Fémur derecho completo	mujer	adulto.
72	Fémur derecho completo	mujer	adulto.
73	Fémur derecho completo	mujer ?	adulto.
74	Fémur derecho completo	mujer ?	adulto.
75	Fémur derecho completo	mujer ?	adulto.
76	Fémur derecho completo	hombre	adulto.

ワウラ川 (RIO HUAURA) 流域遺跡調査概報

PV-41-H77	Fémur derecho casi completo	hombre	adulto.	
78	Fémur derecho completo	hombre	adulto.	
79	Fémur derecho completo	mujer ?	adulto.	
80	Fémur derecho completo	hombre ?	adulto.	
81	Fémur derecho casi completo	mujer ?	adulto.	
82	Fémur izquierdo completo	hombre	adulto.	
83	Fémur izquierdo completo	hombre ?	adulto.	
84	Fémur izquierdo completo	mujer ?	adulto.	
85	Fémur izquierdo completo	hombre ?	adulto.	
86	Fémur izquierdo completo	hombre	adulto.	
87	Fémur izquierdo completo	mujer ?	adulto.	
88	Fémur izquierdo completo	mujer ?	adulto.	Evidencias de patologia
89	Fémur izquierdo completo	mujer	adulto.	
90	Fémur izquierdo completo	mujer	adulto.	
91	Fémur izquierdo completo	hombre	adulto.	
92	Fémur derecho completo	hombre	adulto.	
93	Fémur izquierdo completo	hombre	adulto.	
94	Caja craneana casi completa. Falta la región facial	mujer	adulto.	
95	Mandíbula completa	mujer	adulto.	
96	Mandíbula incompleta	?	adulto.	Caries en el 1M izquierdo
97	Mandíbula completa	hombre	adulto.	
98	Mandíbula incompleta	?	adulto.	
99	Mandíbula completa	?	adulto.	
100	Sacro completo	mujer	adulto.	
101	Tibia izquierda completa	mujer	adulto.	
102	Tibia derecha completa	?	adulto.	
103	Tibia izquierda casi completa	mujer	adulto.	
104	Tibia derecha casi completa	mujer	adulto.	

表4. 中央アンデス地域における編年表(L.G.ルンズプレラス『アンデス文明』による)

時期	地域	ランバイエケ＝ヘケチベケ	チカマニモチエ	ビルー	サンタ	カスマ	チャンカイ	アンコンニ チヨン	リマック	ルリン	チルカ	カニエテ	年代
インカ帝国		インカニチムー ↑ インカニチムー	インカニチムー ↑ インカニチムー	エスチーロ ↑ エスチーロ	インカ ↑ インカ	インカ ↑ インカ	↑ チャンカイニ 白地黒彩 幾何学文三彩 エビゴナル	↑ チャンカイニ 白地黒彩 幾何学文三彩 エビゴナル	インカ ↑ インカ	インカニ パチャカマク (?) ↑ プエルト・ビエホ (?) ↑ エビゴナル	インカ ↑ プエルト・ビエホ	インカニ ワルコ ↑ 後期カニエテ	-1,500
地方国家		チムーニ ↑ ランバイエケ マンバイエケ マンバイエケ 幾何学文三彩	チムー ↑ チムー	チムーニ ラ・ブラタ ↑ チムーニ	チムーニサンタ ↑ チムーニサンタ	カスマ (?) ↑ カスマ	↑ チャンカイニ 白地黒彩 幾何学文三彩 エビゴナル	↑ チャンカイニ 白地黒彩 幾何学文三彩 エビゴナル	インカ ↑ インカ	インカニ パチャカマク (?) ↑ プエルト・ビエホ (?) ↑ エビゴナル	インカ ↑ プエルト・ビエホ	インカニ ワルコ ↑ 後期カニエテ	-1,000
ワリ帝国		(ティアワナコイデ) ↑ ティアワナコイデ	サンタ ↑ サンタ	トマバル ↑ トマバル	サンタ ↑ サンタ	サンタ ↑ サンタ	↑ チャンカイニ 白地黒彩 幾何学文三彩 エビゴナル	↑ チャンカイニ 白地黒彩 幾何学文三彩 エビゴナル	インカ ↑ インカ	インカニ パチャカマク (?) ↑ プエルト・ビエホ (?) ↑ エビゴナル	インカ ↑ プエルト・ビエホ	インカニ ワルコ ↑ 後期カニエテ	-500
地方 発展期		?	モチエ ↑ モチエ	ワンカコ ↑ ワンカコ	レクワイ (ガイナソ) ↑ レクワイ	?	↑ チャンカイニ 白地黒彩 幾何学文三彩 エビゴナル	↑ チャンカイニ 白地黒彩 幾何学文三彩 エビゴナル	インカ ↑ インカ	インカニ パチャカマク (?) ↑ プエルト・ビエホ (?) ↑ エビゴナル	インカ ↑ プエルト・ビエホ	インカニ ワルコ ↑ 後期カニエテ	-500
形 成 期	上層	?	サリナール ↑ サリナール	プエルト・モーリン ↑ プエルト・モーリン	?	パタスカ ↑ パタスカ	↑ チャンカイニ 白地黒彩 幾何学文三彩 エビゴナル	↑ チャンカイニ 白地黒彩 幾何学文三彩 エビゴナル	インカ ↑ インカ	インカニ パチャカマク (?) ↑ プエルト・ビエホ (?) ↑ エビゴナル	インカ ↑ プエルト・ビエホ	インカニ ワルコ ↑ 後期カニエテ	-500
	中層	?	クビスニケ ↑ クビスニケ	後期グァニャベ ↑ 後期グァニャベ	?	モヘケ ↑ モヘケ	↑ チャンカイニ 白地黒彩 幾何学文三彩 エビゴナル	↑ チャンカイニ 白地黒彩 幾何学文三彩 エビゴナル	インカ ↑ インカ	インカニ パチャカマク (?) ↑ プエルト・ビエホ (?) ↑ エビゴナル	インカ ↑ プエルト・ビエホ	インカニ ワルコ ↑ 後期カニエテ	-1,000
	下層	?	無文土器 ↑ 無文土器	中期グァニャベ ↑ 中期グァニャベ	?	モヘケ ↑ モヘケ	↑ チャンカイニ 白地黒彩 幾何学文三彩 エビゴナル	↑ チャンカイニ 白地黒彩 幾何学文三彩 エビゴナル	インカ ↑ インカ	インカニ パチャカマク (?) ↑ プエルト・ビエホ (?) ↑ エビゴナル	インカ ↑ プエルト・ビエホ	インカニ ワルコ ↑ 後期カニエテ	-1,000
古 期	上層	?	ワカ・ブリエタ ↑ ワカ・ブリエタ	セロ・ブリエト ↑ セロ・ブリエト	?	クレブラス ↑ クレブラス	↑ チャンカイニ 白地黒彩 幾何学文三彩 エビゴナル	↑ チャンカイニ 白地黒彩 幾何学文三彩 エビゴナル	インカ ↑ インカ	インカニ パチャカマク (?) ↑ プエルト・ビエホ (?) ↑ エビゴナル	インカ ↑ プエルト・ビエホ	インカニ ワルコ ↑ 後期カニエテ	-2,000
	下層	?	?	?	?	?	↑ チャンカイニ 白地黒彩 幾何学文三彩 エビゴナル	↑ チャンカイニ 白地黒彩 幾何学文三彩 エビゴナル	インカ ↑ インカ	インカニ パチャカマク (?) ↑ プエルト・ビエホ (?) ↑ エビゴナル	インカ ↑ プエルト・ビエホ	インカニ ワルコ ↑ 後期カニエテ	-3,000
石 期	進んだ狩猟民	?	バイハン ↑ バイハン	?	?	?	↑ チャンカイニ 白地黒彩 幾何学文三彩 エビゴナル	↑ チャンカイニ 白地黒彩 幾何学文三彩 エビゴナル	インカ ↑ インカ	インカニ パチャカマク (?) ↑ プエルト・ビエホ (?) ↑ エビゴナル	インカ ↑ プエルト・ビエホ	インカニ ワルコ ↑ 後期カニエテ	-4,000
	先分化採集民	?	?	?	?	?	↑ チャンカイニ 白地黒彩 幾何学文三彩 エビゴナル	↑ チャンカイニ 白地黒彩 幾何学文三彩 エビゴナル	インカ ↑ インカ	インカニ パチャカマク (?) ↑ プエルト・ビエホ (?) ↑ エビゴナル	インカ ↑ プエルト・ビエホ	インカニ ワルコ ↑ 後期カニエテ	-6,000
	?	?	?	?	?	?	↑ チャンカイニ 白地黒彩 幾何学文三彩 エビゴナル	↑ チャンカイニ 白地黒彩 幾何学文三彩 エビゴナル	インカ ↑ インカ	インカニ パチャカマク (?) ↑ プエルト・ビエホ (?) ↑ エビゴナル	インカ ↑ プエルト・ビエホ	インカニ ワルコ ↑ 後期カニエテ	-8,000
	?	?	?	?	?	?	↑ チャンカイニ 白地黒彩 幾何学文三彩 エビゴナル	↑ チャンカイニ 白地黒彩 幾何学文三彩 エビゴナル	インカ ↑ インカ	インカニ パチャカマク (?) ↑ プエルト・ビエホ (?) ↑ エビゴナル	インカ ↑ プエルト・ビエホ	インカニ ワルコ ↑ 後期カニエテ	-10,000
	?	?	?	?	?	?	↑ チャンカイニ 白地黒彩 幾何学文三彩 エビゴナル	↑ チャンカイニ 白地黒彩 幾何学文三彩 エビゴナル	インカ ↑ インカ	インカニ パチャカマク (?) ↑ プエルト・ビエホ (?) ↑ エビゴナル	インカ ↑ プエルト・ビエホ	インカニ ワルコ ↑ 後期カニエテ	-15,000
	?	?	?	?	?	?	↑ チャンカイニ 白地黒彩 幾何学文三彩 エビゴナル	↑ チャンカイニ 白地黒彩 幾何学文三彩 エビゴナル	インカ ↑ インカ	インカニ パチャカマク (?) ↑ プエルト・ビエホ (?) ↑ エビゴナル	インカ ↑ プエルト・ビエホ	インカニ ワルコ ↑ 後期カニエテ	-20,000